

平成 20 年度第 4 回大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会議事概要

1. 日 時 平成 21 年 1 月 9 日（金） 14 時 00 分～17 時 00 分
2. 場 所 関西学院大学大阪梅田キャンパス（アプローズタワー14 階 1402 教室）
3. 出席者 （順不同、敬称略）

京都大学附属図書館	渡邊英理子
神戸大学附属図書館	石定 泰典
大阪府立大学学術情報センター	武藤 記子
京都府立大学図書館	道家 俊之
近畿大学中央図書館	鹿田 昌司（主査）
大阪国際大学総合メディアセンター枚方図書館	尾崎 茂夫
花園大学情報センター（図書館）	福島 丞
大阪大学附属図書館	稲葉 洋子
関西学院大学図書館	兄井 栄子
欠席者	
京都産業大学図書館	近江由紀子

4. 議 事

1) 平成 20 年度基礎研修「初任者研修」のまとめについて

会計監査終了報告及び前回議事概要の確認が行われた後、各委員が事前に作成した研修のまとめについて説明を行った。主な内容は次のとおりであった。

- ① 会場設営、掲示物等について、会場館（大阪市立大学）の全面的支援を得て、順調に運営することができた。
- ② 広報資料の展示を行ったが、持参部数、持ち帰りをどうするかなどについて、やや不徹底な面があった。
- ③ 講師から送られて来た講義資料が様々な様式であったため、やや戸惑うことがあった。また、講義資料の公開についてきちんと決めなければいけない。

※ 講義資料の公開については、検討の結果、これまでに公開許諾を得た資料の一覧表を作成して運営委員会で承認を得た後、公開することとした。また、今回のアンケートも公表する方向で調整することとした。

- ④ 配布資料の作成に時間的な余裕がなく、もれが出てしまった。また、今後も府立大で印刷するのであれば、裏表紙の広告は避けた方がよい。

※ 広告の掲載場所について、運営委員会に提起することとした。

- ⑤ 開催時期について、初任者研修はできれば 9 月くらいが望ましい。専門委員の任期が 2 年であることを考えると、1 年目に中級研修を行い、2 年目に初任者研修を行えば、前年度から準備に入れるので、開催時期を早めることも可能である。

- ⑥ 応募受付について、今回もメールのトラブルがあった。個人のアドレス宛に申し込むのではなく、専用のアドレスを用意するか、Web フォームによる受付にしてはどうか。

- ⑦ 記録については、ボイスレコーダで記録することができた。写真はパワーポイントで投影するため、会場が暗く、うまく撮影できなかったこともあった。

- ⑧ 国立国会図書館の参加資格への疑問が出されているが、運営委員会のメール会議で、案内を出すことが承認されていた。次年度以降は再検討が必要である。
- ※ 関連して、近畿地区私立短期大学協議会が正式に参加希望するのであれば、3月の運営委員会で状況説明程度はしておく必要があるのではないかとこの意見が出された。
- ⑨ 開催通知の配布文書にやや問題があり、各協（議）会への配布に手間取った。次年度は文書に工夫が必要である。
- ⑩ 会計処理は、参加費の徴収がなかったこともあり、スムーズに行えた。
- ⑪ アンケートは、ほとんどの方が提出され、様式に問題はなかったと思う。結果を見ても、まずまずの評価であったことが窺える。
- ⑫ 班別討議に専門委員が参加していないので、状況が分からなかった。同席して様子を見る程度でも、テーマの妥当性などが分かるのではないか。
- ⑬ 次年度は、専門委員が大幅に交替することが予想されるので、各自のまとめを引き継いで、経験を継承するのがよい。

以上の議論をもとに、鹿田主査が運営委員会への実施報告書、年次報告原稿を作成することとした。

2) 平成 21 年度研修事業について

事前に、「次世代目録」、「Web を活かした図書館サービスの展開」というテーマが出されていたが、あらたに、「マネジメント」、「プレゼンテーション」が提案された。検討の結果、個別の団体では実施が難しい「マネジメント」をテーマとすることとなった。

このテーマであれば、外部の専門家に委嘱するのが望ましいが、外部の方をお願いするには、半年前くらいに日程を決めておく必要があるので、3月の運営委員会に仮の企画書を提示できるよう準備を進めることとした。

1日半の日程で、10月頃の実施を想定し、稲葉委員が候補者に打診して情報を得て、以後メールで意見交換をすることとした。また、必要が生じれば、2月にもう一度、専門委員会を開催することも考慮することとなった。

以 上